

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470501212	事業の開始年月日	平成18年1月1日	
		指定年月日	平成18年1月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ横浜永田北			
所在地	(232-0071)			
	神奈川県横浜市南区永田北2-16-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○清潔な環境の中で気持ちよく生活して頂き、ご利用者の体調に合わせて、ご利用者の楽しみにしている入浴や散歩を行い、体調管理・口腔ケアを徹底し、その方に合ったケアを実施している。
○おいしい食事の提供、栄養・いろどり・食器・季節感あふれる食事でおいしく楽しく召し上がって頂く。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価機関 評価決定日	平成22年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞
 ◇グループ全体で取組む人材育成
 ・新任や現任、実践者及び管理者への研修など職員の採用から幹部の教育に至るまで、人材育成のしくみを確立し実践している。介護員、介護福祉士等職員のレベルに応じた福祉資格取得の目標もある。
 ・研修報告書には、業務に活かせる内容の記入欄があり、研修結果を適宜実務に反映している。
 ◇行き届いた健康管理、衛生管理と環境整備
 ・看護師である事業所長の指導の基、健康管理と衛生管理、環境整備が行き届いており、日常の健康管理と清潔な環境のもとでの生活が、利用者の安心感につながっている。特に口腔ケアには力を入れているため肺炎での入院は少ない。食前体操は日課にしている。
 ◇美味しく楽しい食事
 ・年2回の利用者満足度調査では、食事が満足度のトップを占めている。
 ・日常の献立には、七草粥や柚子のかぶ漬けなど季節感のあるものや、おはぎなど懐かしいものもあり、また、時には外食で変化を楽しんでいる。
 ＜事業所の工夫点＞
 ◇入居一時費用の節減
 ・居室には障子戸を入れてカーテンの購入を省き、ベッド等の備品は譲り受けて再活用して、家族が負担する初期費用を抑える工夫をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ横浜永田北
ユニット名	さくら壺番館

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づくサービスの提供を行っており、理念の共有はスタッフ会議・ケアカンファレンスで話し合い共有している。理念は、いつでも見られるように掲げている。	・グループの理念を事業所内に掲示している。 ・開設時にスタッフで作った運営理念「笑顔と声かけでぬくもりのあるホーム」を念頭に、職員は日々のサービスを振り返り、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、防災訓練・運動会・公園清掃・共同募金・お祭り・子供会では七夕・新年会の交流を行っている。	・開設段階から地域へ働きかけ、町内会長の賛同と地域の協力を得ている。 ・町内会の防災訓練や子供会の七夕、ふる里祭り、公園清掃に参加している。 ・事業所の新年会には、子供会を招いている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、情報交換・安心ネットワークの協力を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2-3月に一回実施している。安心ネットワークへの協力・防災訓練の避難場所についての助言を頂いている。	・会議には家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、2か月毎に開催している。 ・活動報告や防災訓練の反省、地域行事への参加等地域に密着した討議を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と介護ケアや運営について、わからないことがある時は、相談したり安心ネットワークでは助言を頂き協力関係を築いている。	・区高齢福祉課と安心ネットワーク作りを行っている。所長が講師となり、区のターミナル研修、地区センターの介護技術研修に協力している。 ・区生活保護課と通院介助入退所で連携を密にしている。	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない実践を行なうよう、職員の研修を行い、身体拘束のマニュアルがある。	・運営規程で拘束禁止を定め、緊急時の判断も委員会が行う旨、明文化している。 ・新任、現任研修でも学び、スタッフ会議で利用者それぞれの行動パターンに添う対応について指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、スタッフ会議で報告し、話し合い虐待は絶対に行わないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに社会福祉士がおり、権利擁護や成年後見人のミニ研修会を行い学ぶ機会を設けており、また、親族の面会時必要のある方については、説明し支援している。又、推進会議でも話題にのせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書等で、説明を行い納得をした上で署名をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時に意見や苦情・助言を受け入れ、事業所の運営に活かし反映されている。目安箱を設置している。	・運営推進委員会や、1月と7月に食事付きで20数名が参加する家族会で家族の要望を聴き運営に反映している。 ・重要事項説明書に苦情窓口を明記し、玄関にも掲示している。	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や申し送りの中で、意見交換を行い、又、いつでも職員がセンター長や管理者へ話しやすい状況を反映させている。	・スタッフ会議は月1回夜勤者も参加できるように朝行い参加する非番職員には超勤手当を出している。 ・提案制度で経営参加意識を高め、勤務表作成時に職員の意向や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上を持って働けるよう資格所得を奨励し、勤務状況を把握し希望などを取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会は、定期的に行なわれており、職員の能力向上に努めている。管理者研修・エルダー研修・ターミナル研修など、ミモザでの研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。グループホームの交換実習を積極的に行い、情報交換をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に困っていること要望などを聞く機会を作り、ご利用者が安心を確保でき信頼関係を築くように努めている。又、アンケート調査を行い、ご利用者の希望を聞いている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には特に、本人の様子などを報告し、困っていることや要望を受け止め、家族との信頼関係が築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、サービスの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の培ってきたこと、食事作り・縫い物などを教えて頂きながら、暮らしを共にする、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近状の報告・状況によっては、その都度連絡をしている。家族会や行事へ参加して頂き交流を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は自由で、訪問しやすい雰囲気に努め、場所を提供している。又、馴染みの家具・写真などを置き支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問はいつでも自由である。家族の来訪も多く通院外出時になじみの店で外食したり、本人の行きたい場所に家族が連れていくこともある。 ・手紙が届くと職員は返事を出す手伝いをしている。 	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	音楽療法・習字・トランプ・ゲームを行い、ご利用者同士が支え合い、交流がもてる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が安心できるよう経過を把握し、所長・管理者は相談に応じる支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン・アンケート調査を行い、一人ひとりの思いや意向を尊重し、希望に添ったケアを実践している。	・職員は、毎日の生活の中から利用者の思いや、希望を把握するように努めている。 ・年2回、利用者アンケート調査を行い、提供しているサービスに関する満足度を把握して改善に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣を把握し、ご利用者以前の生活環境を踏まえながら、改善できる所は時間をかけてできるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者、個々の一日の生活スペースを崩さずに、精神状況・健康状況を見極め日々見守っている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・スタッフで定期的にケアカンファレンスを行い、家族にも常に本人の状況を説明し、話し合いの下で計画作成をしている。	・所長、管理者が主導して、ケアカンファレンスを行っている。 ・介護計画の実施期間は暦日で明確化している。 ・見直しは3か月毎に行い、入退院などのときはその都度話し合い計画を見直している。家族の署名押印がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や、気づきを事細かに記録し、健康状態の把握・QOLの低下防止に努めるため、申し送りやカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に認知症の理解や対応のしかたについての相談に応じ、また、資料を用意し渡し柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り・運動会・防災訓練・子供会公園清掃、地域行事へ参加し安心して暮らして頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の内科往診・月に二回の歯科往診・週一回の歯科衛生士さんの口腔ケアで、ご利用者が適切な医療が受けられ、又かかりつけ医も取り入れている。	・月1回の内科、2回の歯科の往診と週1回、歯科衛生士の訪問口腔ケアがある。 ・歯科衛生士は個別に歯間清掃、義歯状況を把握し、食事を楽しむ支援をしている。 ・通院は職員が付添い、家族に電話で報告している。	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター長が看護師のため、健康管理や相談が常にでき助言を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をもち、家族と一緒に面会の時間を作り、ご利用者の病状を把握し病院関係者との情報交換・早期退院ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル研修を行っており、ミモザとしての方針を今、検討している。方向性としては、医療連携の導入を検討中である。	・家族から「最後までミモザで」の要望もある。グループ全体の指針が6月に成文化される。 ・所長が外部講師を勤めたり職員がグループ内研修に参加するなど実施の準備が進んでいる。	・グループ方針は既に決まり実施内容の検討段階にありますので、何時までにと具体的な実施計画を立て、専門知識・技量活用の体制作りが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修を行い、対応の訓練に当たっている。又、緊急時に備えてマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、その都度ご利用者の身体状況に合わせて見直しを行っている。又、夜勤者の自主点検を行っている。	・防災マニュアルがある。6月と11月に町内会の防災訓練に参加し、利用者に合わせて対応を見直している。 ・居室に防災頭巾、水、食品、トイレ代わりのビニール袋等のデイパックを備えている。	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は、お客様であることを忘れずに個人情報・プライバシーを保護し、配慮するよう努めている。又、研修を行っている。	・個人情報保護マニュアルと会社の基本方針があり、記録は事務室のロッカーに保管している。 ・新任研修で敬語の使い方を学び、服務規程に節度ある服装を定めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者から相談を受けた時は、話を聞き希望に添うようにし、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の、ご利用者の身体状況を把握し、その方に添った日課の提供・食事・散歩などを個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人の希望に添う髪型にし、外出・入浴時には本人の希望する洋服を用意し、自己決定ができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に2回・嗜好調査を行い、ご利用者の希望に添えるよう努力し、年に一・二回栄養士さんに栄養調査を行い、助言を頂いている。	・年2回の嗜好調査、栄養士による調査と助言がある。外食をフランス料理にしたりアンパン、ぼた餅等昔懐かしい食物も提供している。 ・利用者はお茶入れ、テーブル拭き、配下膳に参加している	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取を記録しており、ご利用者に合わせた食事量・好みの物を提供している。又、バランス・栄養を考えた食事と栄養士の指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、週一回衛生士の指導・口腔ケア・月二回の歯科往診を行って、感染症・誤嚥性肺炎の予防にもなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、記録を行いトイレで排泄ができるよう時間誘導をしている。失敗しても気を配った配慮・支援を行っている。	・排泄パターンの記録・把握のほか日頃からの細かな表情、態度を見逃さずトイレ誘導するよう心がけている。 ・排泄パターンの把握とトイレ誘導の結果、自分でトイレへ行けるようになった成功例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・水分摂取の配慮を行い、適度な運動・散歩をし、自然排便があるように支援している。又、便秘が続く時は医師から緩下剤を処方してもらう。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望に添った温度・同性介助を行っている。また、入浴を楽しめるよう季節に応じて、ゆず湯・菖蒲湯などを取り入れている。	・週2～3回、午後に入浴している。職員が利用者の体調の確認と安全のため、必ず付添っている。 ・窓は全面ガラスで浴室は明るい。「入ると気持ちいいわよ」が有効な声かけになっている。	

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠サイクルを把握しており、対応している。リネン交換を順番に行い、安眠のできる環境作りにも支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・用量・副作用については、スタッフが一人ひとりについて把握し、薬のまちがいがないように確認し変化が見られる時は、センター長に報告し医師からの助言をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事・音楽療法やレクリエーションへの参加、又、その方のできることで、掃除機がけ・テーブル拭きなどの役割が持てる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には外気浴をし、一人ひとりの対応にて散歩や買い物へ出かけ、外出する機会を設ける支援をしている。	・近くの公園まで散歩する日課と個人別に日光浴等のプログラムがある。日により遠くの公園や周辺散策に変えて全員が参加している。 ・家族と通院時に希望の店へ立寄る人もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じてスタッフが購入したり、一緒に買い物へ出かけ自分でお金を使い、買い物をすることもある。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に手紙を出したり、交流が深められるよう支援し又、電話は本人の希望と相手の状況を考えた上でやっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、環境整備を常時行っている。又、十分な明るさや室温への配慮をし、季節に合った飾りものなどを置いている。	・玄関前にベンチを備え、パンジーの鉢植えがある。内装は木目で統一され採光、空調、清掃も行き届いている。 ・行事写真などの掲示は少なく利用者の習字や表彰状が飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所で過ごせるよう、共有の丸テーブル・ソファが置いてあり、リラックスできるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みのあるものなどを置き、安心して居心地の良い空間が作れるよう配慮している。又、自作品などを飾り、その方に合った部屋作りの工夫をしている。	・窓側の障子戸が、優しい採光と和室らしい演出をしている。神棚、仏壇、家族写真、たんす等が持込まれている。 ・各室にクローゼットがあり季節衣類の収納もできる。入口の表札は職員の手作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下・トイレ・リビングには手すり、トイレ・浴室・エレベーターにはナースコールが設置されており、残存機能を活かした生活が送れるようになっている。		

事業所名	ミモザ横浜永田北
ユニット名	さくら式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づくサービスの提供を行っており、理念の共有はスタッフ会議・ケアカンファレンスで話し合い共有している。理念は、いつでも見られりように掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、防災訓練・運動会・公園清掃・共同募金・お祭り・子供会では七夕・新年会の交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、情報交換・安心ネットワークの協力を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2-3月に一回実施している。安心ネットワークへの協力・防災訓練の非難場所についての助言を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と介護ケアや運営について、わからないことがある時は、相談したり安心ネットワークでは助言を頂き協力関係を築いている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない実践を行なうよう、職員の研修を行い、身体拘束のマニュアルがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、スタッフ会議で報告し、話し合い虐待は絶対にならないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに社会福祉士がおり、権利擁護や成年後見人のミニ研修会を行い学ぶ機会を設けており、また、親族の面会時必要のある方については、説明し支援している。又、推進会議でも話題にのせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書等で、説明を行い納得をした上で署名をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時に意見や苦情・助言を受け入れ、事業所の運営に活かし反映されている。目安箱を設置している。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や申し送りの中で、意見交換を行い、又、いつでも職員がセンター長や管理者へ話しやすい状況を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上を持って働けるよう資格所得を奨励し、勤務状況を把握し希望などを取り組んでいる。		
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会は、定期的に行なわれており、職員の能力向上に努めている。管理者研修・エルダー研修・ターミナル研修など、ミモザでの研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。グループホームの交換実習を積極的に行い、情報交換をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に困っていること要望などを聞く機会を作り、ご利用者が安心を確保でき信頼関係を築くように努めている。又、アンケート調査を行い、ご利用者の希望を聞いている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には特に、本人の様子などを報告し、困っていることや要望を受け止め、家族との信頼関係が築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、サービスの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の培ってきたこと、洗い物や・洗濯たたみ・掃除などを一緒に行いながら、共に信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近状の報告・状況によっては、その都度連絡をしている。家族会や行事へ参加して頂き交流を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は自由で、訪問しやすい雰囲気に努め、場所を提供している。又、馴染みの家具・写真などを置き支援に努めている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	塗り絵・トランプ・ボールけりなどを行い、ご利用者同士が交流をもてる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が安心できるよう経過を把握し、所長・管理者は相談に応じる支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン・アンケート調査を行い、一人ひとりの思いや意向を尊重し、希望に添ったケアを実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣を把握し、ご利用者以前の生活環境を踏まえながら、改善できる所は時間をかけてできるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者、個々の一日の生活スペースを崩さずに、精神状況・健康状況を見極め日々見守っている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・スタッフで定期的にケアカンファレンスを行い、家族にも常に本人の状況を説明し、話し合いの下で計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や、気づきを事細かに記録し、健康状態の把握・QOLの低下防止に努めるため、申し送りやカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に認知症の理解や対応のしかたについての相談に応じ、また、資料を用意し渡し柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り・運動会・防災訓練・子供会公園清掃、地域行事へ参加し安心して暮らして頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の内科往診・月に二回の歯科往診・週一回の歯科衛生士さんの口腔ケアで、ご利用者が適切な医療が受けられ、又かかりつけ医も取り入れている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター長が看護師のため、健康管理や相談が常にでき助言を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をもち、家族と一緒に面会の時間を作り、ご利用者の病状を把握し病院関係者との情報交換・早期退院ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル研修を行っており、ミモザとしての方針を今、検討している。方向性としては、医療連携の導入を検討中である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な研修を行い、対応の訓練にあたり緊急時に備えてマニュアルがあり、いつでも見られるようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、防災訓練を実施し、その都度ご利用者の身体状況に合わせて見直しを行っている。又、夜勤者の自主点検を行っている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は、お客様であることを忘れずに個人情報・プライバシーを保護し、配慮するよう努めている。又、研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の話には常に耳を傾け、相談や要望に添うようにし、自己決定ができる支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の、ご利用者の身体状況を把握し、その方に添った日課の提供・食事・散歩などを個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時には、本人の希望する洋服を用意し、また季節に応じた身だしなみの提供ができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に二回・嗜好調査を行い、ご利用者の希望に添えるよう努力し、年に一・二回栄養士さんに栄養調査を行い、助言を頂いている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取を記録しており、ご利用者に合わせた食事量・好みの物を提供している。又、バランス・栄養を考えた食事と栄養師の指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、週一回衛生士の指導・口腔ケア・月二回の歯科往診を行って、感染症・誤嚥性肺炎の予防にもなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう時間誘導、できることは自分で行い自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・水分摂取の配慮を行い、適度な運動・散歩をし、自然排便があるように支援している。又、便秘が続く時は医師から緩下剤を処方してもらう。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望に添った温度・同姓介助を行っている。また、入浴を楽しめるよう季節に応じて、ゆず湯・菖蒲湯などを取り入れている。		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じ、午後からは休息できる時間を持ち、リネン交換を行い清潔を保ち、気持ちよく安眠ができる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的・副作用や用量を把握し、症状の変化や確認は申し送りし、業務日誌に記載・状況に応じた対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションへの参加、食事の準備・後片づけなどの役割をもっている。また、買い物へ行き気分転換ができる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には外気浴をし、一人ひとりの対応にて散歩や買い物へ出かけ、外出する機会を設ける支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じてスタッフが購入したり、一緒に買い物へ出かけ自分でお金を使い、買い物をすることもあ		

ミモザ横浜永田北

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に手紙を出したり、交流が深められるよう支援し又、電話は本人の希望と相手の状況を考えた上でやっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、環境整備を常時行っている。又、十分な明るさや室温への配慮をし、季節に合った飾りものなどを置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行事やレクリエーションでは、自分の好きな位置・気の合う同士と一緒に過ごせるような工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるよう、馴染みのもの・大切にしているものを置き、その方が安心して過ごせる部屋の工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下・トイレ・リビングには手すり、トイレ・浴室・エレベーターにはナースコールが設置されており、残存機能を活かした生活が送れるようになっている。		

